

第 7 回 国際標準化対応支援委員会 / 運営委員会 国際会議出席報告書

資料 No.	< TC47 関係 > 国際会議出席報告書
7-2 / TC47-	TC47/PT62258「半導体ベアダイ・プロジェクト」英国 / アルトン国際会議出席報告書 20100315-20100317
資料 No.	< TC80 関係 > 国際会議出席報告書
7-2 / TC80-	TC80/WG6「船用航海および無線通信装置とシステム」英国 / ロンドン国際会議出席報告書 20100322-20100323
資料 No.	< TC87 関係 > 国際会議出席報告書
7-2 / TC87-	TC87/WG6「超音波」米国 / サンディエゴ国際会議出席報告書 20100328
7-2 / TC87-	TC87/WG14「超音波」イタリア / ジェノバ国際会議出席報告書 2010210-20100211
資料 No.	< TC93 関係 > 国際会議出席報告書
7-2 / TC93-	TC93/WG2「デザインオートメーション / ハードウェア設計記述言語」米国 / サンノゼ 国際会議出席報告書 20100223-20100225
資料 No.	< CISRP 関係 > 国際会議出席報告書
7-2 / CISRP-	CISRP SC-I「マルチメディア機器等に関する EMC」ドイツ / シュツットガルト国際会議出 席報告書 2010223-20100225

(社)電子情報技術産業協会
国際標準化対応支援委員会 御中

運営委員会・資料番号: 7-2 / TC47- (事務局記入)

提出日: 2010 年 4 月 5 日

(報告者記載) 予算番号: H21TC47

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名: 永広祐一 報告書作成者氏名: 永広祐一 (会社名) (株)東芝

出席会議名(半角)	区 分		組織番号	TC47 (半角)
TC47/PT62258	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input checked="" type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他	(TC/SC/TA)	半導体ベアダイ・プロジェクト
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他	名 称	
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他	(日本語)	
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 単独開催 <input type="checkbox"/> 同時開催	
開 催 期 日	2010 年 3 月 15 日 ~ 2010 年 3 月 17 日			
開 催 場 所	(国名) 英国		(都市名) アルトン	
チアマン/コパナ	James Wolbert		幹事国 米国	
参 加 国 及 び 参 加 人 数	4 ヶ国、主な国名 米国、英国、独国、参加人数 (5)			
日 本 人 出席者名(会社名)	[: 補助対象者... (例): 電子太郎(JEITA 電子)] (株)東芝 永広祐一			

議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。)

背景は、半導体ベアダイに関する IEC 規格を作成するプロジェクトチームが 2001 年に承認され、欧州のベアダイ仕様書 ES59008 をベースに米国と日本の意見を取り入れる形で国際版ドラフトを作成している。目的は、半導体ベアダイを調達する際にサプライヤーとユーザーの間でどのようなデータをどのような形式でやりとりするかのガイド作りであり、最低要求事項(minimum requirement)を定義している。半導体ベアダイの「調達と使用のための必要な情報(必要条件)」を Part1 で定義し、それに基づき Part2 で書き方のフォーマットを規定。「取り交わしのデータ形式」を ASCII コードを用い、直接 CAD に入力できるようにしている。この規程内で使用する用語は IEC 61360(data dictionary)から引用している。今回の会議は TC47/62258(Semiconductor die products)の Part2(Exchange data formats) の第 2 版をファイナライズするのが目的。第 1 版を 2005 年 6 月に発行しており、その後に出てきた新技術用語などはすでに Part 1 第 2 版に取り込み済みで、今回はその Part1 第 2 版に基づき Part2 も改定し最終版 Ver.FE として事務局に提出し、今年度の発行を目指す。Part4(Questionnaire for die users and suppliers)。これはドイツの ZVEI が中心になって作成したもので、Part2 の改定内容にあわせて Part4 も改定した(Part4 は、Part2 の Visual 的なもの)。今回作成ドラフトを CD として提案する。Part5(Requirements for information concerning electrical simulation)、Part6(Requirements for information concerning thermal simulation)は、電気と熱のシミュレーションの入力情報を定義しているので、基本的には新規の要素はなく本文の第 1 版からの変更はほとんど無し。リファレンスを最新版に修正した。これも CD で提案する。=====

昨年のイスタンブールでの TC47 総会で、現在の IEC ベアダイプロジェクトチームが TC47/WG3(従来のリーダーはフランスの ST 社のワークを引き継ぐ事になった。(昨年の TC47 総会と、それに付随する半導体信頼性案件を議論する各委員会への参加は、JEITA の半導体信頼性小委員会の全メンバー会社からイスタンブールへの渡航許可が全く出ず、だれ一人参加が出来なかったという経緯有り、詳細は今回のアルトンで初めて説明を受けた)。IEC シンガポール事務局の TC47 担当スザンさんと TC47 議長のロデスさん(米国 JEDEC)、UK の TC47 代表ジョーリンチさんは本件すでに承認済みであり、今のベアダイプロジェクトチームへ従来の WG3 の仕事が引き継がれる。その場合でも WG3 の番号をそのまま維持して残すことになっている。但し、WG3 を継続運営していくには 5 か国以上の関係国の参加が必要であり、米、英、独、仏と、あと最低 1 か国の参加が必要。今回は新 WG3 をどのような内容にするかの話しがあった。しかし、今後の IEC 規格のドラフトを作成する委員会への参加については、まだ JEITA 内での審議が何もなされていない為、参加への意思表示はしなかった。従来の WG3 は元々の TC47 国内委員会の委員長が参加していた経緯は有り。今回の議論内容の要約は、タイトルが、Long-term storage of Electronic Semiconductor Devices とし、適用は、Generic market であるが一般商用/車載/航空スペースの全てをカバーするというもの。よって、この標準作成の目的は用途分野では航空宇宙(+軍事)を想定した、長期間の 20~30 年間の半導体ベアダイの保管条件などを規定し、その長期間の保存後にも、半導体ベアダイの機能が維持され、その後の使用に耐えうるものなどとして規定していくもの。今のベアダイプロジェクトの中身は、適用用途は一般商用(民生用途)限定であり、長期保管についても 1~数年程度の実用的なもので、規格作成して上での前提条件が全く異なる。今年の TC47 総会(2010 年 10

月米国(ソト)で NWP(New Working proposal)を提案し、第 1 回の会議を行うとした。(今回は非公式であり、提案に向けての内容を議論した) 3 回 / 年ほどの会議を開催し、1st-CD は 1 年後 2011 年 10 月を目標とするとした。要求内容は、ほぼ軍事規格から来るものと思われ、米/英(独/仏)が主導すると思われるが、あまりきつい内容になっても半導体メーカー側が困るので、委員の意見バランスを保つ上で JEITA から参加するかどうかを今後、半導体信頼性小委員会や TC47 国内委員会のメンバーと協議し、参加是非の結論を 10 月の会合で意志表示する必要がある。

- [注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
 3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
 4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
 5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1(千代田ファーストビル南館) Tel:03-5275-7259 Fax:03-5212-8122

(TSC-06 様式 2010.1)

(社)電子情報技術産業協会
国際標準化対応支援委員会 御中

運営委員会・資料番号: 7-2 / TC80- (事務局記入)

提出日: 2010年4月2日

(報告者記載) 予算番号: H21TC80

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名: 矢内 崇雅 報告書作成者氏名: 田北 順二 (会社名) 日本無線 (株)

出席会議名(半角)	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC80 (半角)
WG6	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input checked="" type="checkbox"/> WG
	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG
	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> TC	<input type="checkbox"/> SC	<input type="checkbox"/> TA	<input type="checkbox"/> WG
	<input type="checkbox"/> PT	<input type="checkbox"/> その他		
				<input checked="" type="checkbox"/> 単独開催 <input type="checkbox"/> 同時開催
開催期日	2010年3月22日 ~ 2010年3月23日			
開催場所	(国名) 英国		(都市名) ロンドン	
チャirman/コパナ	Stefan Steier		幹事国 UK	
参加国及び 参加人数	9ヶ国、主な国名 英、独、米、加、日、韓、ノルウェー、スウェーデン、参加人数(12)			
日本人 出席者名(会社名)	[: 補助対象者... (例): 電子太郎(JEITA 電子)] 田北 順二 (日本無線)			
<p>議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)</p> <p>1. 背景 : 船舶搭載機器のデジタルインタフェース規格審議、開発のための委員会である。</p> <p>2. 目的 : 船用機器に使用するインタフェース規格改訂の審議、イーサネットを使用した軽量インタフェース新規規格開発の検討を行う。</p> <p>3. 成果</p> <p>次のような内容の見直しが行われ、IEC 61162-450 CDV のための最新ドラフト(2010-3-23 版)が作成された。</p> <p>IEC 61162-450 の Fault Tolerance(故障耐性)や Redundancy (冗長性) についての詳細な要件は、本文には、記載せず Annex D (Informative)に推奨(リコメンデーション)として記載することになった。</p> <p>LAN からシリアルデータに変換する SNGF(Serial to Network Gateway Function Block)のデータのグルーピングについての細かい規定はしないこととし、機器メーカは、マニュアルにデータのグルーピングの方法やデータがオーバーフローした時の処理を記載することとした。</p> <p>センテンスとバイナリーデータ用の Destination port number (宛先ポート番号)を決定した。ポート番号は特別の理由がない限り、IEC 61162-450 の規定に従うこととした。</p> <p>NMEA の規定した TAG BLOCK と IEC 61162-450 では、NMEA の規定する全ての TAG BLOCK の機能を使用せず、必要最小限の機能しか利用しないこととした。</p> <p>改ざん防止用の新たな TAG(-a)の新設は、しないこととし、IEC 61162-1 のメーカ独自センテンス (Propriety sentence)を利用することにし、テキストパラメータ(-t)かプロプライエタリーパラメータ(-p)の TAG BLOCK で送信することにした。(タスク・グループがドラフトを作成する。)</p> <p>VDR 用のレーダ映像の転送については、レーダ規格 IEC 62388 と異なるが、このことは、問題としないことを確認した。(レーダの規格とは異なり、IEC 61162-450 は、映像のための汎用のインタフェースである。)</p> <p>IEC 61162-450 の試験方法と要求試験結果の8章を作成した。</p> <p>2) IEC 61162-450 規格の開発予定</p> <p>3月29日までに各タスク・グループが担当部分の規格ドラフトを完成する。</p> <p>レーダの Mr Roedseth が TC80 WG6(LWE)メンバーに回章する。</p> <p>4月10日に、TC80 Secretary が IEC 中央事務局に CDV 案を送付する。</p> <p>IEC 61162-450 の CDV が4月中には、投票のために各国に回章される予定。</p> <p>3) 次回の会議</p> <p>6月29日~7月1日、スウェーデン・ストックホルムで開催。</p>				

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

(社)電子情報技術産業協会
国際標準化対応支援委員会 御中

運営委員会・資料番号：7-2 / TC87- (事務局記入)

提出日：2010年4月5日

(報告者記載) 予算番号：H21TC87

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内山 進 報告書作成者氏名：岸本 眞治(会社名)日立メディコ

出席会議名(半角)	区 分		組織番号	TC87(半角)
TC87/WG6	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		(TC/SC/TA)	
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称	超音波
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		(日本語)	
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		<input checked="" type="checkbox"/> 単独開催 <input type="checkbox"/> 同時開催	
開 催 期 日	2010年3月28日 ~ 2010年3月28日			
開 催 場 所	(国名)米国	(都市名)サンディエゴ		
チャirman/コパナ	Thomas Szabo	幹事国 イギリス		
参 加 国 及 び 参 加 人 数	6ヶ国、主な国名 米国、英国、オランダ、中国、フランス、日本、参加人数(8)			
日 本 人 出席者名(会社名)	[: 補助対象者...(例): 電子太郎(JEITA電子)] 岸本眞治(日立メディコ)、			
<p>議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)</p> <p>背景及び目的：WG6は、集束強力超音波による治療機器関連の測定手法を審議しているが各CDには多数のコメントが寄せられ審議に時間を要している。さらにSC62DのPJと合同でIEC 60601-2-62[集束強力超音波による治療装置の個別安全規格]を審議しており、今回は審議加速を目的に前回積み残したコメントを全て審議する目的で開催。</p> <p>内容：</p> <p>1. [HITU 治療機器の音場物理特性と測定の技術仕様書]の審議 測定手法は、HITUを診断用のローパワーで測定し外挿で高音圧の値を算出し、非線形性等々の補正パラメータを使用する内容で、TC87/WG14におけるIEC 61949TS Ed.1の技術内容と同じである。WG14では技術的欠陥を指摘され技術仕様書に格下げとなった手法を、HITUに流用したものである。09年9月のエクサアンプロバンス会議で記述不十分との指摘を受け早急に二次CDを発行することになっていたが、まだ各国コメントを審議していないとの事由で未達。今回は残りのコメント審議に徹するとのこと。しかし前回同様に「ISLPTA side lobe peak temporal average の定義と物理的な有用性が不明瞭である」など厳しい評価。また、水中で測定したサイド・ローブの有用性への疑問に対しても答えを得られず今後も難航すると考える。このままTSになった場合は数年後にISへ格上げされる可能性があるため、より妥当な方法を検討していく必要がある。</p> <p>2. [HITU 治療機器のパワー測定規格]審議 PJリーダーのAdam Shaw氏欠席で進展は乏しかった。前回スコープを、カロリメトリ法とび天秤法に限定したが、以前ワーキングドラフトに記載していた高音圧用のハイドロホンやオプティカルファイバー法が復活した。しかし前回追加する事とした「測定中のキャビテーション防止手法のガイダンス」と、「分割トランスデューサによる収束ビームの評価ガイダンス」は未提出。なお測定手法の最適選択ガイダンス、とシステム全体での測定不確かさ評価、は残存。パワーは500Wまで、0.5~5MHzで変更なし。前回の重要指摘事項である、「測定の不確かさの数値記述の必要性」と、「浮力変化手法の構造を明確化」の記述追加は不十分であった。6月に東京会議にて遅延を挽回したいとのこと。</p> <p>3. IEC 60601-2-62 [HITU システムの個別安全規格] 第3次CD素案の紹介とコメント審議 Rob Hekkenberg氏がレビュー実施し、以下の検討事項を説明した。 ・HITU パワーの定義明確化 ・非対称のビーム、つまりサイドローブへの対応 ・「フォーカルボリューム」と複雑なビーム形状へ対処</p> <p>4. 次回会議開催など 2010年10月のTC87シアトル会議としたが、必要に応じ6月に東京での会議を検討。</p>				

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

(社)電子情報技術産業協会 運営委員会・資料番号: 7-2 / TC87- (事務局記入)

国際標準化対応支援委員会 御中

提出日: 2010 年 2 月 23 日

(報告者記載) 予算番号: H21TC87 A

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名: 内山 進 報告書作成者氏名: 内藤 みわ (会社名)アロカ株式会社

出席会議名(半角)	区 分		組織番号	TC87 (半角)
TC87/WG14	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		(TC/SC/TA)	
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称	超音波
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		(日本語)	
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 単独開催 <input checked="" type="checkbox"/> 同時開催	
開 催 期 日	2010 年 2 月 10 日 ~ 2010 年 2 月 11 日			
開 催 場 所	(国名) イタリア	(都市名) ジェノバ		
チャirman / コパナ	Adam Shaw	幹事国 イギリス		
参 加 国 及 び 参 加 人 数	10 ヶ国、主な国名 アメリカ、イギリス、ドイツ、オランダ、イタリア、日本、参加人数 (25)			
日 本 人 出席者名(会社名)	[: 補助対象者... (例): 電子太郎(JEITA 電子)] 内藤みわ(アロカ)、内山進(東芝メディカルシステムズ)、岸本眞治(日立メディコ)、菊池恒男(産総研)			
<p>議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)</p> <p>背景及び目的 WG14 は、超音波音場の照射量及び安全性に関係した文書の作成を行う。現在、超音波診断装置の音響出力の照射量の見積のための補正方法、超音波による温度上昇の測定方法、超音波照射のリスク分析に参考となるガイダンスを検討している。</p> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 有限振幅超音波ビームの媒質中の照射量推定に関する IEC TS61949:2007 については、TS 出版後3年以内に IS 化 TS でそのまま TS 改訂 廃止を判断する。K.Sandstrom 氏(以下 K.S.)が実験結果を発表し、予め送られてきた起案者及び内藤のコメントを審議した。K.S.の 6dB ビーム面積に近似式を用いる提案に対し、内藤は反対した。証拠となる実例を次回までに用意することになった。この TS の補正法は HITU (強力集束治療用超音波) の音場測定でも採用する動きがあり、IS に格上げされる可能性がある。より妥当な方法を検討していく必要がある。 2. 超音波診断装置は個別規格 IEC 60601-2-37:2007 で超音波照射についてのリスクマネジメントが求められている。技術レポートの形式でリスク分析のガイダンス文書を作成することを前回のソウル会議で決めた。今回の会議前に配布された draft 文書は超音波照射のリスク分析だけではなく超音波診断装置のリスク分析のガイダンスとなっており TC87 の範囲を逸脱していた。(日本から事前に TC87 範囲の逸脱を指摘。) 審議の結果、超音波照射のリスク分析として TC87 の範囲内のガイダンスとすること、生体への影響評価表、質問リストなどの作成を行い、M.Ziskin 氏が WFUMB 等の医学会との窓口となることを決定した。 3. 超音波照射による温度上昇の赤外線測定方法 TS 案について、今回欠席の東芝山崎氏作成の資料をもとに内藤が代理で発表を行った。測定不確かさの問題と開発中のプロトタイプファントムを説明し、次回はこのファントムを用いた実験結果を提示すると説明した。発表後出席者から拍手をいただき、日本の本 TS に対する取組が評価された。次回会議まで、R.Hekkenberg 氏が NP 案をとりまとめる。 4. ARFI (Acoustic Radiation Force Impulse Imaging)の安全性評価方法については、内藤が問題点を短く纏めた発表を行った。プロジェクトメンバーでホワイトペーパーを作成することになった。 5. 熱的ハザードの評価モデルは TR の形式で最新版ドラフト(09.05.14 作成)がコンピナーから送付された。将来 IEC 62359 Ed.3 で考慮される可能性があるため、内容の吟味が必要である。 6. その他として BMUS 安全性ガイドライン改訂 (2010.2 月発行) などの安全性に関する資料の紹介があった。 <p>次回会議開催 2010 年 10 月 TC87 シアトル会議。</p>				

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

(社)電子情報技術産業協会
国際標準化対応支援委員会 御中

運営委員会・資料番号: 7-2 / TC93- (事務局記入)

提出日: 2009 年 3 月 10 日

(報告者記載) 予算番号: H21TC93

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名: 山本 一郎 報告書作成者氏名: 小島 智 (会社名) NEC システムテクノロジー(株)

出席会議名(半角)	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC93 (半角)
WG2	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他		名 称 (日本語)	デザインオートメーション
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
		<input checked="" type="checkbox"/> 単独開催 <input type="checkbox"/> 同時開催		
開 催 期 日	20010 年 2 月 23 日 ~ 2010 年 2 月 25 日			
開 催 場 所	(国名) 米国		(都市名) サンホゼ市(カリフォルニア州)	
チャirman/コパナ	WG2 コパナ: 小島 智		幹事国 米国	
参 加 国 及 び 参 加 人 数	3 ヶ国、主な国名 米国、日本、英国、参加人数(7)			
日 本 人 出席者名(会社名)	[: 補助対象者... (例): 電子太郎(JEITA 電子)] 小島智(NEC システムテクノロジー)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)				
<p><背景>電子機器・部品の設計や試験の仕様記述言語、機能や環境データの流通方式、等の標準化ニーズが大。</p> <p><目的>TC93 が先行実施している IEC/IEEE ダブルロゴ標準手順の定着迅速化、エキスパート確保、活動活性化、等の課題認識を踏まえつつ、上記標準に対する日本のニーズ織込みを図る。</p> <p><成果>TC93 国内委員会は JEITA や JPCA 等の関連委員会と緊密な連携し活動展開している。特に WG2 国内活動は、JEITA EDA 技術特別委員会を中心に、小島が WG2 コ・コンビナとして国際標準化活動を推進すると同時に日本の意見反映をしている。</p> <p>国際学会 DVCon2009 に併設し WG2 会議を開催し、米国 WG2 コ・コンビナーの Brophy 氏と 2009 年 京都会議で検討した新規規格およびメンテナンス規格の 2010 年度計画を再確認し、進捗状況をアップデートした。また、デュアルロゴ規格候補を開発している IEEE DA 標準化委員会会議に出席し、米国委員、独国委員との情報交換を目的に WG2 国内委員会(JEITA EDA 標準化小委員会)で開発進めた設計言語鳥瞰図を紹介し、意見交換を行った。</p> <p>新規規格： 2010 年度はなし。但し、2011 年度の候補である IEEE1685-2010(IP-XACT)は、WG2 と WG6 に跨る規格であるため、10 月のシアトル全体会議で議論する。</p> <p>メンテナンス規格： 京都会議での提案を 2 件を再確認。IEEE1076-2008(VHDL)は、IEC61691-1-2 を予定。 IEEE1800-2009(SystemVerilog と VerilogHDL 統合)は、2009 年に IEEE で承認され、IEC61691-6-2 を予定。 これにより、VerilogHDL(IEEE1364-2005、IEC61691-4-1)はメンテナンスしない。 今回 2 件を追加提案することを決定。IEEE1481-1999(DPC)は、IEC61523-1-2 を予定。IEEE1497(SDF)は、IEC61523-3-1 を予定。</p> <p>次回は、6 月にアナハイム市開催の国際学会 DAC2010 と併せて WG2 会議開催を予定。</p>				

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

(社)電子情報技術産業協会
国際標準化対応支援委員会 御中

運営委員会・資料番号: 7-2 / CISPR- (事務局記入)

提出日: 2010 年 3 月 30 日

(報告者記載) 予算番号: H21CISPR

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名: 堀 和行 報告書作成者氏名: 千代島 敏夫 (会社名) 株PFU

出席会議名(半角) CISPR SCH- WG4	区 分		組織番号 (TC/SC/TA)	CISPR SC-I (半角) 名称 (日本語) マルチメディア機器等に関する EMC <input checked="" type="checkbox"/> 単独開催 <input type="checkbox"/> 同時開催
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input checked="" type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
	<input type="checkbox"/> TC <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> TA <input type="checkbox"/> WG <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> その他			
開催期日	2010 年 2 月 23 日 ~ 2010 年 2 月 25 日			
開催場所	(国名) ドイツ		(都市名) シュツットガルト	
チャirman/コパナ	John Davies		幹事国 日本	
参加国及び 参加人数	8ヶ国、主な国名 英国、オランダ、ドイツ、フランス、米国、参加人数(26)			
日本人 出席者名(会社名)	[: 補助対象者... (例): 電子太郎(JEITA 電子)] 雨宮 不二雄(NTTアドバンステクノロジー(株))、秋山 佳春/NTT環境エネルギー研究所、平澤 徳仁/NTT環境 エネルギー研究所、長部 邦廣/(株)VLAC、堀 和行/ソニー(株)、千代島 敏夫/(株)PFU			
<p>議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)</p> <p>WG4 はマルチメディアイミュニティ規格 CISPR35 の検討をしている。 2008 年 6 月に発行された 2nd.CD (CISPR/1/270/CD) に対する各国からの約 900 件のコメントについて、2008 年 10 月の大阪会議、2009 年 2 月のシドニー会議、さらに 2009 年 10 月のヒルズボロ会議で検討してきた。今回のシュツットガルト会議では、機能別誤動作判定基準を規定する Annex 部分が審議された。</p> <p>主な決定事項</p> <p>(1) 本文について、IEC61 000-4-3,-4-6 を引用する連続性雑音イミュニティ試験について、印加レベルを 2 倍にして、周波数ステップを 1%の代わりに 4%とする代替試験方法が追加された。そして、「疑義の生じた場合は、1%ステップの試験方法を使用すること。」という文章が追加された。</p> <p>(2) Annex A 信号処理・記憶機能の誤動作判定基準については、本文 10 項の一般判定基準に追加の情報がないので削除することとなった。</p> <p>(3) 誤動作判定基準の基本的記述方法を、次のように修正した。 例) 誤動作判定基準 B 10 章で定義された判定基準 B に次を追加する。 は許容される。 は許容されない。</p> <p>(4) Annex I 楽音発生機能の誤動作判定基準については、日本が提案した内容であるが、適用範囲の定義に次の文章を追加した。「本 Annex は、アラームクロックや電子レンジ、タイマーなど単純な応答音の発生機能には適用しない。</p> <p>今回の審議結果を反映した 3rd.CD 相当が添付された NP が 2010 年 5 月に、コメント期間 2 ヶ月で各国に回付される予定である</p>				

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。

国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ

〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1(千代田ファーストビル南館) Tel:03-5275-7259 Fax:03-5212-8122

(TSC-06 様式 2010.1)